

中学部第2・3学年自立活動 学習指導案

学校名 一関聾学校
対象学級 中学部2・3学年
指導日時 平成15年10月14日(火)
指導者 小野寺直樹

I 単元名 中学部 自立活動 「コミュニケーション」

II 単元設定の理由

本単元は、聴覚障害児のコミュニケーション手段の一つである「手指メディア」を取り上げ、その技術と文法、使用法について理解・習得させることをねらいに設定した。

本単元のねらいと学習内容は、盲・聾・養護学校中学部学習指導要領第5章第2の5「コミュニケーション」、内容(4)「コミュニケーション手段の選択と活用に関すること」、(5)「状況に応じたコミュニケーションに関すること」に基づいて設定した。

4名の生徒の手話表現技術のレベルはそれぞれである。中学部3年生の2名は2年間、2年生の2名は昨年1年間、自立の時間において手話を学んできたが、その表現力・読みとり能力・理解度の学年による差はあまり明確ではなく、むしろ聴覚レベル、生活環境、言語能力、学習能力などによって個人差が見られる。本年度の始まりの段階までに、「初級手話教室」(全日本ろうあ連盟発行)レベルの手話単語、表現はだいたい定着できてきている。

本単元では昨年までの学習・演習を土台に、積極的に新しい手話を使った手話スピーチの充実、新しい単語の習得、手話独特の文法、表現法について、写真、パソコンによるデジタル教材などを使用しながら学習させ、定着をはかりたい。

III 単元の指導目標

- 1 テーマに沿った「手話スピーチ」の中で、学習した手話単語を使い、元になる文章の意図が確実に表現できるようにする。
- 2 手話の状況や対象に応じた的確な表現と、その有効性について理解する。
- 3 手話の音声言語とは違う特性を理解し、伝えたい内容・感情がそれによってより正確に表現できることを知る。
- 4 日本語対応手話と日本手話の違いを具体的表現を通して学び、日常の生活に活用できるようにしていく。

IV 単元の指導計画(全12時間)

- | | | |
|---------|------------------|---------------------|
| 第1時 | 5W1Hの表現① | |
| 第2時 | 5W1Hの表現② | |
| 第3時 | 副詞の表現 | |
| 第4時 | 接続詞の表現 | |
| 第5時 | 反対語の表現とその特性 | |
| 第6時 | 日本語対応手話と日本手話の違い | |
| 第7時 | 手話(特に日本手話)の特徴的表現 | ①語彙の選択 |
| 第8時 | 〃 | ②表情、代名詞化 |
| 第9時(本時) | 〃 | ③主語の明確化、時間・空間表現、同時性 |
| 第10時 | 〃 | ④語順の入れ替え、空間の移動 |
| 第11時 | 読み取りの演習 | |
| 第12時 | 年間の学習のまとめ | |

V 本時の学習指導

- 1 主題
手話(特に日本手話)の特徴的表現 ③主語の明確化、時間・空間表現、同時性
- 2 指導目標
日本語対応手話と日本手話、それぞれの「主語の明確化、時間・空間表現、同時性」の表現方法の違いとその有効性について、VTRで表現を視聴させ、その方法の違いを確認し実際に表現させることで理解を深めさせる。

3 生徒の目標G（目標行動，評価規準）

日本語対応手話と日本手話の「主語の明確化、時間・空間表現、同時性」の表現方法の違いを理解でき、それぞれの方法を使って、単文を作り表現することができる。

4 目標達成までの流れ

G 目標行動に同じ

① 日本語対応手話と日本手話の表現方法の違いを生かした、単文を作り表現することができる。
→ ②③④

② 日本語対応手話と日本手話の「主語の明確化」の文法の違いを理解することができる。

③ 日本語対応手話と日本手話の「時間・空間表現」の文法の違いを理解することができる。

④ 日本語対応手話と日本手話の「手話の同時性」の文法の違いを理解することができる。

⑤ 例文のVTRの手話の内容が読みとれる。

⑥ 例文内の新しい手話単語の意味が理解できる。

⑦ 例文内の既習の単語や文法が理解でき、読みとれる。

⑧ 日本語対応手話と日本手話の歴史的な違いが理解できる。

5 本時の展開

	学習内容	学習活動		指導上の留意点 教材・教具 評価
		教師の活動	生徒の活動	
導入 13分	手話スピーチ「今までの一番」と発表	<ul style="list-style-type: none"> ・座席（馬蹄形）の確認（発表者に対して） ・不正確な手話は直させる。 ・スピーチが読み取れているか発問する。 ・読み取れていない部分は解説し、新しく使われた手話は確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 〈手話の表現と読み取り〉 ・発表者はスピーチの発表を行う。他の3人はその内容を読み取る。 ・読み取った内容を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立の時間の始めに10～15分程度、テーマを決めて生徒、教員による手話スピーチを行う。発表者（生徒）は事前に内容・手話に関して教員の支援を受ける。
展開	既習事項の確認R⑧ 本時の学習の学習の前提の「主語の明確化」「時間・空間表現」「同時性」 「主語の明確化」のプレゼンテーション 「主語の明確化」の文法と表現②	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語対応手話と日本手話の立ちについて発問する。 ・前時の内容を思い出し、カードで示し、確認させる。 ・「主語の明確化」の意味と表現上の注意点を説明する。 ・例文をよく読み、日本語の対応手話の順に動画を視聴する。 ・新しい単語は意味と表現を解説する。 ・日本語対応手話、日本手話の表現の違いを、本日の確認事項として発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的な流れと日本語との関係を発表する。 ・言葉カードの説明を聞き、内容を確認する。 ・「主語の明確化」の説明を聞き、わからない部分は質問する。 ・「主語の明確化」の意味を聞き、日本語の対応手話の動画を視聴する。 ・例文を表現したり、他者の表現を見たり、主語の明確化の特徴を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、一般に使用されている手話との関係を助言する。 ・言葉カードの言葉の意味を平易な言葉でわかりやすく説明する。 ・教員使用のノートパソコンを2名に1台（計2台）準備 例文《子供に「勉強しなかつた」と言ったら泣いて困った。》 ・動画はそれぞれ2度ずつ視聴する。

展 開	「時間・空間表現」の注点を説明する。 ・「時間・空間表現」の注点を説明する。 ・例文の動画を視聴させる。(2文)新しい単語は意味と表現を解説する。	・「時間・空間表現」の注点を説明する。 ・例文の動画を視聴させる。(2文)新しい単語は意味と表現を解説する。	・「時間・空間表現」の注点を説明する。 ・例文の動画を視聴させる。(2文)新しい単語は意味と表現を解説する。	例文1 《私は生まれた時からずっと京都です。(に住んでいます)》 例文2 《漬け物の味は祖母から母に、母から私に受け継がれている。》
	「時間・空間表現」の注点を説明する。 ・「時間・空間表現」の注点を説明する。 ・例文の動画を視聴させる。(2文)新しい単語は意味と表現を解説する。	・「時間・空間表現」の注点を説明する。 ・例文の動画を視聴させる。(2文)新しい単語は意味と表現を解説する。	・「時間・空間表現」の注点を説明する。 ・例文の動画を視聴させる。(2文)新しい単語は意味と表現を解説する。	・「時間・空間表現」の注点を説明する。 ・例文の動画を視聴させる。(2文)新しい単語は意味と表現を解説する。
終 末	「手話の同時性」の注点を説明する。 ・「手話の同時性」の注点を説明する。 ・例文の動画を視聴させる。(2文)新しい単語は意味と表現を解説する。	・「手話の同時性」の注点を説明する。 ・例文の動画を視聴させる。(2文)新しい単語は意味と表現を解説する。	・「手話の同時性」の注点を説明する。 ・例文の動画を視聴させる。(2文)新しい単語は意味と表現を解説する。	例文2 《私と妹は5千円ずつ出して、母にプレゼントを買った。》
	「手話の同時性」の注点を説明する。 ・「手話の同時性」の注点を説明する。 ・例文の動画を視聴させる。(2文)新しい単語は意味と表現を解説する。	・「手話の同時性」の注点を説明する。 ・例文の動画を視聴させる。(2文)新しい単語は意味と表現を解説する。	・「手話の同時性」の注点を説明する。 ・例文の動画を視聴させる。(2文)新しい単語は意味と表現を解説する。	・「手話の同時性」の注点を説明する。 ・例文の動画を視聴させる。(2文)新しい単語は意味と表現を解説する。

6 本時の評価

- ・日本語対应手話と日本手話の歴史的変遷、表現方法の特徴と違いを理解できる。
- ・「主語の明確化、時間・空間表現、同時性」それぞれの方法を使って、簡単な文を作り表現することができる。